

長野中央病院のリハビリテーションを継承した「老人保健施設ふるさと」



自立重視型排泄アプローチ

365日立ち上がり訓練



「ふるさと」では、長野中央病院リハ病棟と同じように、毎日、みんなで集まって、「立ち上がり訓練」をしています。もちろん通所リハビリでも行っています。

いま、老健ふるさとをご利用される方に、最も求められるのは「体力の向上」です。脳卒中の患者さんのための訓練として始まった「立ち上がり訓練」を、みんなでやることでレクレーション気分で行え、気持ちも晴れやかに、とても有効なものとなっています。

入所や通所をご利用いただいている皆さんの日課に組み込まれ、多くの方にその効果を感じていただいているため、「家に帰ってもやるもの」という、意識も生んでいるようです。

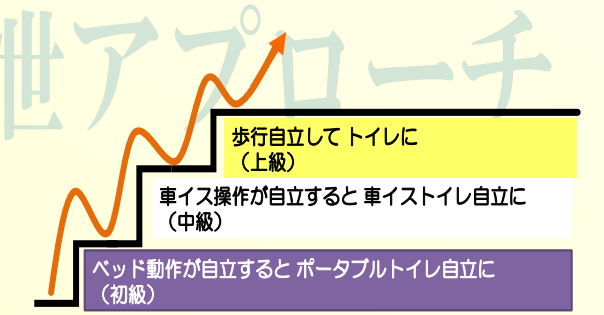
利用される方やそのご家族が「希望」としてあげるものに「排泄の自立」があります。

こうした希望にお応えするために、「ふるさと」では、「自立重視型排泄アプローチ」での取り組みを行っています（右図をご参照ください）。

障害があるがゆえに、オムツでの排泄になっている方には、スタッフと一緒に、ベッド横のポータブルトイレでの排泄自立を目指していただきます。さらに、車いすトイレでの自立、そして、歩行でのトイレ自立へと、目指すものを段階的にステップアップさせていきます。

障害の重さ等により、どの段階までいけるかは異なりますが、最大限自立を目指すのがこのアプローチの目標です。

ご一緒にがんばりましょう。



移動動作が進歩するに従って、排泄自立レベルが、初級レベルから中級、そして上級レベルにステップアップしていく排泄アプローチが、「自立重視型排泄アプローチ」。

自立重視型排泄アプローチ

「らくらく手すり」「前手すり型車いすトイレ」……

いきいきスタッフ



「ふるさと」には、常勤のリハビリテーションの専門職（理学療法士・作業療法士）が5人在籍し、入所・通所で、個々に、あるいは、集団でのリハビリテーション指導を行っています。

もちろん看護師、介護職員による日常のケアにも、学習・研鑽を重ね、力をそそいでいます。

また、常勤医師のほかに、長野中央病院から、リハビリの中野先生（当施設副施設長）、認知症分野の西沢先生も、毎週、来所され、診察等を行っています。（協力病院は、同一法人の長野中央病院です）。



「前手すり型車いすトイレ」「スーパーらくらく手すり」「滑らず歩行器」……。

その方の能力を最大限に発揮していただくためには、動きやすい環境を設定することも必要となります。

「ふるさと」では、長野中央病院リハビリ科で創造された様々なアイデアに、独自の工夫を取り入れながら、日々のケアに生かしています。そうすることで、「自分ができる」ことが増えていくことは、職員一人ひとりの喜びともなっています。



「ふるさと」での職員学習会風景。学習会は、職種ごとによるもののほかに、様々な職種が合同で行う（多職種協同）のものも多いのが特徴です。



「生きがいづくり」

周囲には田畑が広がる「ふるさと」。その畑をお借りし、みんなで大豆をつくり、毎年、「ふるさと手前味噌」を仕込んでいます。（施設内にも農園があります）。

他にも、ボランティアの方の協力も得ながら、月毎に、様々な行事や生きがいづくりの活動を行っています。

